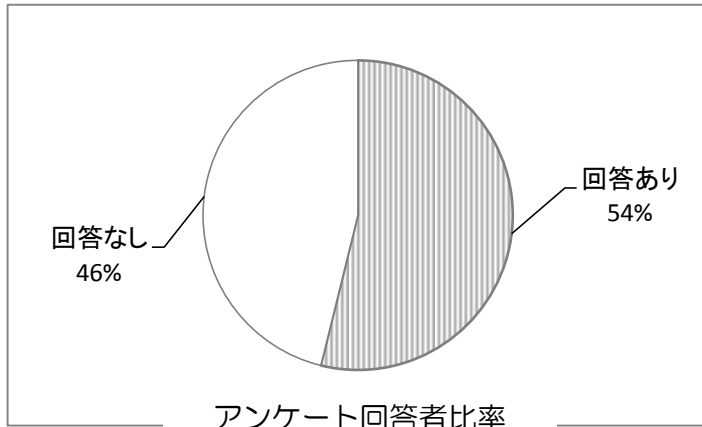


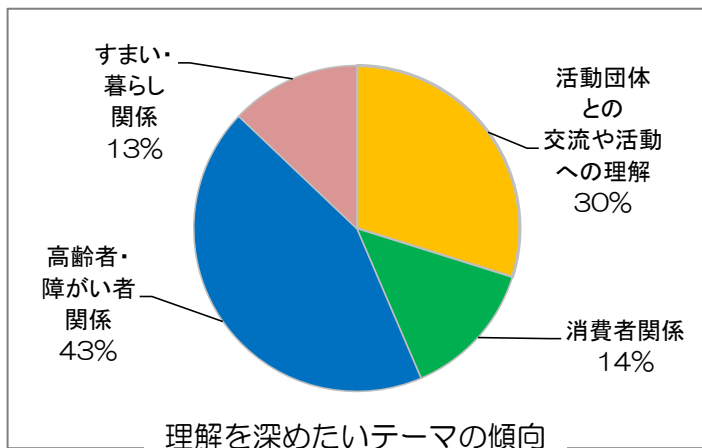
H24年度「ふくてっく学習会」に向けたアンケート調査報告

企画担当 清水 麗子



H24年4月に実施しました、学習会等についてのアンケート調査では、21名の会員から、回答をいただきました。（H24年4月30日現在、正会員39名）

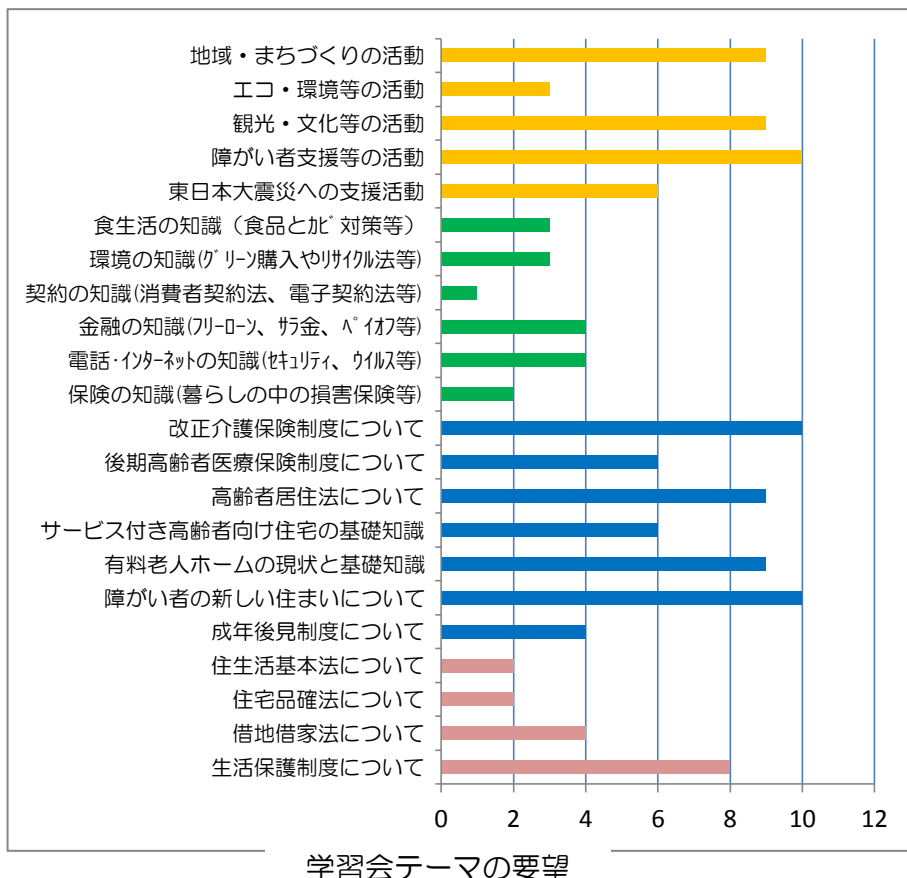
1、学習会への要望



学習会の要望については、4ブロック22項目のテーマからの選択（複数回答可）と記述の方法でおこなった。

テーマ選択で回答項目総数は124
（記述に該当するものも含める）

回答結果から、高齢者や障がい者がおかれて
いる住環境や関わる施策等について理解を深め
たいとの要望が多く、次に、他の団体との交流
や活動への理解が多かった。



左グラフは、具体的な要望数

学習会テーマの要望

■ 記述による学習会への要望

学習会のテーマ
大阪市の生活保護受給の状況。
福祉の有ボ連加盟団体の関係者やNPOの紹介。
障害のいろいろな分野の知識を紹介してほしい。
障害に認定されていない病気やもやもや病等
病気の子どもを持つ家庭への支援等
橋本市長を考える討論会
振り子の原理（畑会員講師）
茶室の美（樋口会員講師）
新自由主義の中における市民運動のあり方 ～市民活動と市民運動の違い～
団塊の世代の責任 ～団塊の世代は何を壊し、何を創ってきたか、そして何を償うべきか～
新世代の責任 ～若者は自分たちの時代を創れるのか その気概があるのか～
橋本現象の意味するところ ～今、世界で、日本で、何が起きているのか～
学習会運営等に関するご意見
毎回工夫を凝らせて、充実した内容になっていると思う。
熟年者が多いNPO団体です。頑張ってください。
若い会員の方にも気軽に出席できるようなシステム・雰囲気をもっとあればと思います。
いつも手配・手続きご苦労様です。ふくてっくでやる以上難しいかも知れませんが、関連事項での学習会は必要だと思います。
各々が手を動かすことのできる学習会が必要だと思う。全員が実際に考え行動する活動でなければ形として成果が出にくい。テーマを挙げて聴講会からの議論が必要。
重い問題が2つ続いた時には、少し明るい軽い問題・話題を混ぜてほしい。学習会だから仕方がない面もあるが。。。。。
表に書かれたテーマ・内容については、全て興味があります。特に障害、高齢者に関わる様々な活動や法や制度の事などをいろいろお話お聞きできればと思います。
国・地方公共団体等充分ではないが、高齢者にはある程度いろいろ政策や制度も揃ってきていると考えられるが、同じ目線で比較しても障がい者に対しては、まだまだのように思う。現状をしっかりと学びたいと思う。

学習会は会員等のスキルアップを目的に実施していますが、「知識」だけでなく「人の繋がりが」「他者への理解」を深めることもふくまれています。アンケートの結果、会員もその思いを共有してることが伺い知る事ができました。

H24年度のふくてっく学習会は、アンケートの要望を軸に組み立てていきます。

2、ふくてっくの強み・課題について

「NPOふくてっくは、活動や事業を継続しておこなっていますが、現在のNPOふくてっくの強み（利点）とは、課題とは何でしょうか？」との質問に対して、21名中16名の方から回答をいただきました。

強み	様々な価値観が共存している。そこには無限の可能性がある。意味なく、異色が集まるはずはない。そこに何かがあるはず。それを活かせば、“強み”となり、ただ置いていたら“弱み”となる。
	フットワークの軽さ
	強みはやはりメンバーの構成上「建築」の専門性が高いことは事実であり、訴求力はあると考えます。この特化が必要では！
	様々なタイプの間があること。
	自発性を尊重、専門知識の活用と探究心。
	熟年パワーで頑張ってください。
	いろんな専門知識を持った人材が、豊富にいる。
	いろいろな価値観・生き方をされている多くの仲間があること。やるぞ・・・となれば結構やれる組織だと思うこと。
	福祉に強い建築士さんが多くいられる。
	個性が強いメンバーが多いが仲良く活動している点
	会員同士の結びつきが和やかで明るいのが良い。
	活動が自由にできる。
	生活(福祉)の情報が入り、且つ、学べる。仲間との(参加者)とのコミュニケーション
専門性	
課題	活動に生活がかかっていない。生活をかけられない。だから(?)心底、本気になれていない。では、どうするのだ?というところが、いまいち議論にさえならない。どんなに問いかけても、敢えて議論を避けている。反応がない。そんな日和見を乗り越えないと、結局、ふくてっくは、“社会的運動”にはなり得ないのではないか。それでよいとしているのなら、はっきりとそう明言すべきなのに、それさえも言わない。何なのか?
	高齢化
	現状に甘んじ積極的に目標をつくらない。思いはあっても行動が伴わない。
	フットワークが軽い為に、地に足が着いていない活動
	相互(部会同志)の情報交流は内容として充分だろうか?
	部活動が、年間に周期があったとしても、もう少し活発にならないか?
	ふくてっくは全ての方面への対応をしようとしている所に常に課題を呈していると思います。どちらかを選ぶべきでしょうか?それともやはり両面か?今 課題かと思います。
	未だに理念、そして何を目的にしているかわからない。
	具体的な社会貢献事業が、あまり出来ていない。もっと、出来るのではないのでしょうか。
	多くの仲間の知恵の使いどころが有るはずなのに、明確にできていないこと
	会として目指すもの共通目標がはっきりしていない点。
	会員ができるだけ多く活躍してほしい。
	もう少し問題点を掘り上げる必要があるのでは?
当NPOの目標と個人の目標・目的の融合ができるか!若い世代の入会が少なく高齢化によるマンネリ化が気になる!!	
庶民性、とつきにくい、色々活動が有り、的がしぼれていないような気がする。	
意見	私自身は科学的に物事を考えていけるので、手伝うことがあれば手伝わせてもらいます。
	他のNPOとの比較の経験がないので分からない。

アンケートへのご協力、ご意見ありがとうございました。